



インドネシア

BOP層家庭訪問調査レポート

- 調査実施日：2014年1月19日
- 調査場所：スラバヤ市西ドゥクパン地区
- 調査対象：イمام(仮名)さんの一家
- 換算レート：100インドネシアルピア≒0.86円(2013年11月末)



イمامさんの一家



家族構成	イمام(仮名)さん 41歳 妻と小学3年生と2歳半の娘がおり、4人家族
世帯収入	毎月100万ルピア マグロ漁船の乗組員をしていたときの貯金があり、不足分は少しずつそこから引き出している。
職業	元韓国系のマグロ漁船で乗組員、現在は市内で 守衛として働いている。 妻は子育ての為専業主婦。

イمامさんについて

東ジャワ州シダルジョ県出身である。高校を卒業後、船員になるための研修を受けて、1994年から韓国系のマグロ漁船で乗組員を務めた。獲ったマグロはほとんど日本向けに売られたそうである。毎年、韓国の釜山に寄港して1カ月程度滞在するのが常だったが、日本・静岡県清水港にも寄港したことがある。

7年前にマグロ漁船の乗組員を辞めて帰郷し、スラバヤ市出身の今の妻と結婚した後、スラバヤ市内にて、守衛として働き始めた。現在の勤務場所は、2年目である。

将来への希望

イمام氏によると、月収100万ルピアで生活できるのは、妻が食費などでやりくり上手であることに加え、マグロ漁船の乗組員をしていたときの蓄えがまだあるからということであった。しかし、その蓄えもいずれ限界が来る。イمام氏は、「可能であれば、かつてなじみのあった韓国へ出稼ぎに行きたい」と言う。

そして、子供には、工場労働ではなく、オフィスで事務系の仕事に就いてもらいたいそうである。



住居

イマム氏一家は、簡易アパートに7年前から住む。この簡易アパートには7世帯が住むが、イマム氏一家以外は独身者である。



イマム氏一家の住む簡易アパート。手前の鳥かごのあるところにイマム氏が居住



イマム氏宅の入口。左側が台所

イマム氏宅にはトイレがない。トイレや洗濯場は簡易アパートに1つあり、住人による共用となっている。



簡易アパートの共同トイレ・沐浴所



簡易アパートの共同洗濯場

生活費

家賃は毎月30万ルピア払う。

電気や水道の支払いは、簡易アパートとしてまとめて支払われている。アパート全体で、1ヵ月当たり、電気代が20～30万ルピア、水道代が約17万ルピアであり、それを7世帯で分けている。

電気は国営電気会社(PLN)、水道はスラバヤ市水道局(PDAM)から供給されており、盗電や盗水は行われていない。

イマム氏宅には3部屋あり、その向かって左端に台所が付設されている。台所にはガスコンロが一つ置かれており、3キロの小さなガスボンベ1個が繋がれていた。

イマム氏宅は、客を入れる客間があり、その隣の部屋が夫婦の寝室兼リビング、一番奥の部屋が子供部屋になっている。夫婦の寝室兼リビングでは、マットレスがたたまれてあった。どの部屋もきれいに片づけられていた。



イマム氏宅の台所



入ってすぐの客間

夫婦の寝室と子供部屋は機能的に完全に分けられている訳ではないようで、たとえば、子供が寝つけないときには子供部屋で添い寝するなど、臨機応変に使っている。



夫婦の寝室兼リビング。マットレスがたたまれ、壁に立てかけられている



子供部屋

家電製品など

イマム氏は現在、少ない収入をやりくりして生活しているが、その割に家電製品がそろっている。家の中にはテレビが2台、中型冷蔵庫、扇風機があり、小学校の娘はタブレット端末でゲームをしていた。

テレビと冷蔵庫は、マグロ漁船に乗っていたときに貯めたお金で独身時代に買ったもののようで、けっこう古いタイプのものであった。バイクは、親族からの資金援助もあって、ローンではなく現金一括で買ったという。



リビングのテレビと扇風機



子供部屋のテレビ



客間の冷蔵庫



現金一括で買ったバイク

JETRO



食事

イマム氏の家の食事は、その時々の手に入るもので間に合わせている。タンパク質源は豆腐やテンペであり、野菜を炒めたり、スープにしたりしている。

市場やスーパーへ買い出しに行くことはない。毎朝5時半、行商人がやってくるが、そこで必要な食材はとりあえずすべてそろうとのことである。行商人の品物は、午前9時頃にはすべて売り切れるそうである。



時間

起床は午前3時半から4時頃であるが、守衛という職業上、生活リズムは不規則になりがちである。守衛業務は午前7時～午後3時、午後3時～午後11時、午後11時～午前7時の3シフトである。以前は守衛業務者が6人しかいなかったもので、丸1日休みをとることができなかったが、1人増えて7人になったので、ようやく週1日は休めるようになったとのことであった。

妻はほぼ1日中家にいて子供の世話をしており、小学生の娘は、朝に登校して、昼には帰宅する。

訪問後の感想

イマム氏は限られた収入でギリギリの生活を送っているが、耐久消費財もそれなりにそろっているし、見た目からは、外部者である筆者がイマム氏らの生活の悲壮感を感じることはなかった。かつて韓国漁船で働いていた際に貯めた資金を少しずつ取り崩しながら、つつましく暮らしている。

この地区は、元々住んでいた住民が余所へ移った後、様々な場所から人がやってきて作られた新しいコミュニティである。そうではあっても、よそ者同士が互いに助け合いながら生活している様子がうかがえる。皆がイマム氏と同じような境遇であり、裕福な人がまとめて面倒を見るといった形にはなっていない。また、マイクロファイナンスのような、コミュニティ成員が資金を融通し合う仕組みは見られなかった。

BOPビジネスへの含意としては、これら低所得者層への販売を期待するというよりも、教育・保健が無償であるとはいえ、病気や怪我などへの備えをコミュニティが共同で進められるような働きかけがまず必要ではないかという気がする。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。